

完成した壁面アートを鑑賞する参加者たち



福渡病院(岡山市北区建部町福渡)で13日、川崎医療福祉大

福渡病院へ壁面アート

川崎医福大生、地域住民ら制作

待合スペースに温かみ

(倉敷市松島)の学生と地域住民らが、待合スペースの壁にオリジナルのシールを貼った壁面アートを制作した。

2月から、トイレや階段などを示すサインに絵文字(ピクトグラム)を導入するなどしてきた同病院のデザインプロジェクトの総仕上げとして実施。同大医療福祉デザイン学科3、4年生11人と病院職員、地域住民ら約40人が参加した。

壁面アートは高さ2・6メートル、幅約5メートル。新しい風」をテーマに旧建部町の町花のキンモクセイや町木のヒノキ、近くを流れる旭川や河畔に咲く桜などをモチーフにしたデザインで、参加者は葉の形などにカットした約20

色のシール約600枚を協力して貼り付け、温かみのある作品に仕上げた。

リーダーの同大4年白井美樹さん(21)は

「大勢の方の協力があり作品にボリューム感が出た。利用者の癒やしの空間になれば」と話した。

(池葉須則夫)